



Press Release

ロングリーチグループ、825 億円のバイアウトファンドを設定完了 － 大企業の子会社・事業部門の独立化及び中堅企業の MBO を支援 －

【東京、香港、2006 年 4 月 24 日】 ロングリーチグループ(以下、ロングリーチ)は、第 1 号ファンドとなる Longreach Capital Partners 1 及び Longreach Capital Partners Ireland 1(以下、ファンド)の設定完了を発表致しました。

ファンド総額は募集上限の 825 億円(750 百万米ドル相当。米ドル受入時は ¥/\$ = 110 で換算)となりました。国内外大手機関投資家及び企業からの出資に加え、共同投資の仕組みを活用することにより、日本における大型バイアウト案件への投資を行って参ります。

ロングリーチは、日本産業の国際的競争力強化に貢献する独立系ファンドとして、国内における「戦略的 事業再編と事業再創出」に資する投資を行っていく方針です。ロングリーチの得意とする産業テクノロジー分野、金融サービス分野、ヘルスケア分野、コンシューマサービス分野を中心に、大企業の子会社・事業部門の独立化や中堅企業の MBO を支援すると共に、資本パートナーとして早期の上場・株式公開を指導して参ります。

###

報道関係者からのお問い合わせ

ギャビン・アンダーソン (服部)

03-5404-0640



ロングリーチグループについて

ロングリーチグループは、日本及びアジアにおける戦略的プライベート・エクイティ投資を目的に 2003 年 10 月に設立された投資会社です。

設立メンバーである、マーク・チバ(ロングリーチグループリミテッド、グループチェアマン兼取締役パートナー)、三好康之(株式会社ロングリーチグループ、代表取締役兼パートナー)、吉沢正道(株式会社ロングリーチグループ、代表取締役兼パートナー)は、これまで大手投資銀行幹部として数多くの戦略的事業再編ソリューションを経営トップに提供・実行してきた実績があります。これに、製造業及び金融サービス業において深い事業経営経験を持つ 4 人の顧問を加え、投資後の事業価値向上に貢献する支援を提供しております。

アドバイザー・ボードのメンバーは、ダグラス・ダフト(元、コカコーラ会長・CEO)、宮内義彦(オリックス株式会社 取締役兼代表執行役会長・グループ CEO)、サンフォード・ロバートソン(Robertson, Stephens & Co. 創業者兼元会長、Bank of America 元取締役)、サー・デビッド・スコリー(元、SBC Warburg 会長)、横山禎徳(元、マッキンゼー・アンド・カンパニー東京支社長)であり、日本・アジア・米国・欧州における事業強化に資するネットワークの提供が可能です。

ロングリーチはこうした各メンバーの経験と実績に基づき、グローバル水準の分析・投資実行力とローカル文化への調和の双方を融合させ、今までのプライベート・エクイティとは異なる特色ある投資活動を行って参ります。昨年は、第 1 号案件として日本マクドナルドホールディングスへの投資を行いました。

ロングリーチグループには、ケイマン諸島およびアイルランドを拠点とする投資ファンド、香港拠点のロングリーチグループ・リミテッド、そして、東京拠点の株式会社ロングリーチグループが含まれています。株式会社ロングリーチグループは、日本およびアジア市場に関するデータや情報を収集し、投資ファンドのアドバイザーであるロングリーチグループ・リミテッドが投資案件の発掘調査を行うためのサポートをしています。